

3. 仏教の伝来と奈良・平安仏教

○仏教の伝来…6世紀前半 - 中ごろ(538?・552?)百済の聖明王→欽明天皇に仏像・経典献上。

仏 = ^{あだしくのかみ}蕃神・^{まろうどのかみ}客神(外国の神)⇔国神(日本古来の神)

…仏教を受け入れるかどうかでバトル!(崇仏論争) ○蘇我氏 vs ×物部氏

仏教?ウケ☆

仏教?ダメだ! 日本古来の神様はどうなるんだ!!

○聖徳太子…推古天皇の甥。摂政を務める。仏教を奨励し、四天王寺や法隆寺を建立。

・十七条憲法(憲法十七条)…一. 和を以て貴しと成し、^{さか}忤ふること無きを宗とせよ。

日本的協調

儒教的道徳(上下)

二. 篤く三宝を敬え。三宝とは仏・法・僧なり。

仏教の重視

十. ……我必ず聖に非ず。彼必ず愚かに非ず。共に是^{ほんぶ}凡夫ならんのみ。…

凡夫:欲望の間に迷う人間

・『^{さんぎょうのぎしょ}三経義疏』…^{ほっけ}法華経・^{しょうまん}勝鬘経・^{ゆいま}維摩経の注釈書。

・『^{せけんこけ}世間虚仮・^{ゆいふつぜしん}唯仏是真』…世間はむなしく、仏のみが真の存在である。(→仏教的世界観)

○奈良仏教…鎮護国家思想に基づく国家主導の仏教。(ex. 東大寺・国分寺・国分尼寺(聖武天皇))

・南都六宗…^{さんろん}三論・^{じょうじつ}成実・^{ほっそう}法相・^{くしゃ}俱舎・^{けこん}華嚴・^{りつ}律の6宗。(鑑真が伝える)⇒学問としての仏教

・鑑真…唐から渡来。東大寺に戒壇を設け、受戒制度を確立。唐招提寺建立。

・行基(遊行聖)…民衆への布教、宿泊所・橋の建設などの社会事業→東大寺造立に参加。

○平安仏教…災いを除き、福を招き、現世での幸福を願う^{げんぜりやく}現世利益を求めて^{かじきとう}加持祈禱が行われる

・入唐した^{さいてい}最澄・^{くうかい}空海(※講義 No.4「最澄と空海」で解説)により新仏教伝来。教説・修行の体系化

・加持祈禱…病気や災難を除くために仏の加護を祈る呪術の一種。

○神道とのかかわり…

・本地垂迹説…^{ほんじすいじゃくせつ}仏が本地(真理の根源・main)で神は垂迹(民衆に分かりやすく形となって現れること・sub)

平安初期から生まれ、のちに^{ごんげん}権現思想(神は仏が「権に現れたもの」とする思想)が広まる。

反対に、鎌倉末期の神国思想(蒙古襲来の^{きんげん}撃退)の影響で神がmainで仏がsubという考えを反本地垂迹説(神本仏迹説)という。(→度会家行による伊勢神道(度会神道)形成)

・神仏習合…^{しんぶつしゅうごう}日本固有の神と仏教との信仰の融合。(ex. 神社に神宮寺、神前読経)→神道思想形成・仏教の民間伝播の促進。

理解する 倫理 ~日本思想編~

○末法思想と浄土信仰…

- ・末法思想…釈迦没後、正法千年(教・行・証)・像法千年(教・行)・末法一万年(教)という段階を経て次第に仏教が衰えていくという考え。1052年が末法の始まりだとされた
- ・浄土信仰…(11世紀中ごろ)摂関政治の衰退→戦乱・災害→人々の不安→浄土教が人々の心を掴む
- ・浄土教…「厭離穢土・欣求浄土」をスローガンに、(西方)極楽浄土への生まれ変わりを信じ願う教説
- ・厭離穢土・欣求浄土…この世は穢れてて厭だ！極楽浄土へ往生(阿弥陀仏と共に生きる事)したい！
- ・念仏…
 - ・口称(称名)念仏 (唱える) 浄土教：南無阿弥陀仏(阿弥陀仏に心から帰依します！)
 - ・観想念仏 (心に思い浮かべる)
- ・空也(市聖・阿弥陀聖)…諸国を遊行して念仏を庶民に広めた。公共事業や貧民・病人の世話なども
- ・源信…『往生要集』で西方浄土へ往生することを説く→のちの法然にも影響

センター問題に挑戦! No.3 (2010年追試) [標準]

「蕃神」に関して、蕃神とは外国の神という意味である。当時、仏を蕃神と呼んで、それを信仰することに反対する人々もあった。それらの人々が反対した理由として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 外国の神を敬うのは、在来の神々の怒りを呼ぶおそれがあるから。
- ② 外国の神を受け入れるのは、在来の絶対神との契約に背くから。
- ③ 仏には、在来の神々のように恩恵だけをもたらす力がないから。
- ④ 仏を在来の神々と同列に扱うのは、仏の怒りを招くおそれがあるから。

[No.2の答④ ①×邪悪な力を恵みを与える力に変化 ②×戒律に従い⇒仏教的。文章もちぐはぐ。 ③×罪を告白し、悔い改め、赦しを得る⇒キリスト教的]